

邑井操 （幼名） 講釋師。明治四十五年（二月十一日）東京生れ（一九二一）。

本名川村哲也。日本大學中退。家業の米商を経て、昭和十七年板金工場経営。十八年一度目の應召でハルビンへ。軍隊内の素人演藝で講談（キ語り）、終戦後シベリヤ抑留生活中演藝會を企画。（一九二二年歸國、一十七年邑井直吉に入門し、放送作家として活動）。

著書 『朝日と毎日』『森永対明治』『ビール合戦』『越前松坂屋』（昭和

三十九） 『二年七月』『二十年の東京』『ナイフ社』『東京選書』（、『日本の大衆世芸術

―民衆の涙と笑ひ』（合著、昭和二十七年十一月） 『二十日社会思想社

『現代教養文庫』（、『大閩記（全）』『豊臣秀吉風雲録』（昭和四十

年五月） 『二十日大和書房』『ペンギンバックス』（、『秀吉と家康―乱世

の生きとび―の個性』（昭和四十年十月） 『二十日大和書房』『ペンギンバ

ックス』等。